

---

「 」

融点

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

「  
」

### 【コード】

N9995U

### 【作者名】

融点

### 【あらすじ】

話を決めていく話

それがこの話のあらすじです。

あらすじに書くことはありません。だって内容決まっていなしい！

ふざけてません。本気で遊んでいます。

ブローグ「金もないけど内容もない」(前書き)

呆れないで頑張って読んでください。

## プロローグ「金もないけど内容もない」

「で、どつする？」

「・・・何を」

「え？いやだから、これをどんな話にするかってことだよ」

「・・・あのう、もう少し俺にもわかるように言ってくださいな」

「ああ！そうか。俺は　　いや、わかりにくいから僕のほうが

いいな。僕は作者にこの話の趣旨を聞いたんだけど、もしかして聞いてない？」

「ほう。初耳だ」

「じゃあいっせ。この話は　　何も決まってない！」

「・・・ええつと、日本語でお願いしますわ」

「最初から日本語ですが　　とまあ古風なボケはそのくらいにして」

「おお。　　決まってないで、どゆこと？」

「決まってるないんだよ。タイトルどころか、展開、結末、キャラクター、ジャンルすらも未定だ」

「・・・俺たちは？」

「ああ、さすがにあれだつてことで今作られた仮の存在。設定は極めて平凡になっているけども今後の展開によっては語尾に「・・・ござる」とかつけるキャラになる可能性も否定できない　　」

「否定してくれ！頼むから！」

「・・・まあ、僕も嫌だから作者に一言　　『そんなキャラにしたら、話進めてやんねーぞ！』と。あ、そうだ一応最低限文章にするために最低限のナレーションをしてくれるナレーターの名を連れてきたから」

どうぞよろしく。

「最低限なんだ・・・」

何か文句でも？少年Bさん。

「しょ、少年B！？何その凶悪事件の加害者みたいな名前！」

「しょうがないだろ。名前すらないんだから。                  ちなみに少年Bは名前じゃないと思う」

「うう・・・名前から先に決めちまおうぜ」

「え？                  名前つて一番面倒じゃね？あとでいいよ」

「よくない！」

「それよりさ、簡単などこから決めてつたほうがいいって。

まず、セオリーの学園ものな。今いんのは高校の教室つてことだよる」

了解です。

二人は夕暮れの教室で、ひとつの机を挟み込むかのように座っていた。

少年Bは頭を抱え、少年Aはしばらく教室内を見まわしてからこちらに

「おお、いい感じ。さっすがっすね」

と中途半端な敬語で言った。どーも。

「よし、じゃあさくつと進めていこうぜ。次は何決めるー？」

「・・・もう、どうでもいい。何も決めたくない。っーか作者自分で決めるよ・・・」

少年Aは慰めるように少年Bの方に手を置いた。

「まあまあ。自分たちで決められるっていうのは、なかなかないもんだぜ。普通のキャラは勝手に決められてその中がどんなに生きづらくとも生きていかなきゃならない・・・たとえば語尾が「・・・ござる」「でもだ！」

「・・・それはそうかもだが」

「むしろこの状況は歓迎すべきだ。                  僕たちで、新しい未来

を、道を、切り開いていこうじゃないか」

少年Aは、あなたのほうに人差し指を向けると、

「待ってるよ、俺がお前の度胆ぶち抜いてやるからな！」

「……いや、かつしめくねえし」

あ、続きます。

## 第一章「食パンなんて大嫌い」

「まあ学園ものでいいだろ。今流行ってるし、学生からの受けもいいじゃん？」

「あーそつすね」

「セオリーはやっぱり恋愛系かバトルものだよなあ。男視点にするか女視点にするかとかも重要なポイントだし」

「あーそつすね」

「地の文を一人称式か三人称式にするかも変わってくるか。どうする？」

「あーそつすね」

「・・・いや待てよ。流行ってるってことはもう使い古されてるってわけだから、新ジャンルを開拓したほうがいいのか・・・雲の上から落ちる話はどうだ！」

「ごめんなさい！適当に返答し続けてごめんなさい！話ちゃんと聞いてなくてごめんなさい！だからその微妙な新ジャンルだけは勘弁してください！空から落ちてくる系のヒロインとかぶってるから！」  
立ち上がって頭を九十度近くまで下げる少年B。

「しょうがない、許してやろう。で、本気でどうする」

「うーん・・・別に恋愛ものでいいーんじゃねえの？だってテキストにヒロイン出さなかったこいーヤツ転校してきてライバルを倒して結ばれハッピーエンドでいいんだから簡単じゃねえか」

「全国の少女漫画家及び小説家が聞いたら殴りこんできそうなセリフだがまあいいか。んじゃ、早速やってみよーぜ」

「おーよ」

「んじゃ、オペレーション・スタート！」

「・・・その無駄に高いテンションについて、ツッコんだほうがいいのか・・・」

\*\*\*\*\*

「きゃー！遅刻遅刻っ」

初めまして！私は佐藤 愛。今日から新学期なんだけど、さっそく寝坊

朝ごはんなんて食べてる暇なかったから、食パンを口にくわえながら登校中

今日はなんだか出会いがありそうなよか・・・「カーツトカーツトカーツト！」

「・・・なんだよ、少年B。邪魔してんじゃねえよ」

「いやいやいやいや。いくら適当でもあれはない！絶対ない！」

「えー。どこらへんが？」

「全部だ全部！最初のセリフも名前のテキストさとかいちいち語尾に が付くのもそうだけど一番むかつくのは食パンだ！今の時代にパンくわえて登校するやつがどこにいる！何時代の人想定してつくってんだ！」

「でも、定番じゃん」

「あれはなあ、悪い定番なんだよ！どうせあの後かつこいやつと曲がり角でぶつかって実は転校生！？しかも同じクラスで隣の席！？みたいな展開がまつてるんだろ！」

「お前・・・何故わかった」



「誰でもわかるわポケ！とにかく恋愛ものはナシだナシ。やっぱりバトルものにしてよう」

「うー・・・まあ、いいか。じゃあ、オペレーション・スター・・・」

「

「だあっ！待て待て待て待て。今度は一緒にじっくり内容を考えてからにしてようじゃないか」

「・・・まあ、いいけど」

というわけで、次回はバトルものになりそうです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9995u/>

---

「 」  
2011年10月9日04時54分発行